

## 目的

高精度な測位環境を活用した様々なサービスが実現できる環境づくりに向けて、実証実験等を通じ、屋内の電子地図や測位環境等の空間情報インフラの整備を推進し、民間サービスの創出を促進する。

## 背景・課題

- 屋内で人（スマートフォン等）の位置を測位する環境がない。
- 測位ができた結果を表示する屋内の電子地図がない。  
（限定的に整備されており、面的サービスが提供できていない。）
- 屋内の地図を整備・更新し、市場へ流通させる仕組み、体制が確立されていない。

## 技術の進歩

○ 東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年には、準天頂衛星4機体制、屋内測位技術の進歩等により、「高精度測位社会」の実現が見込まれる。

### 【屋外測位】

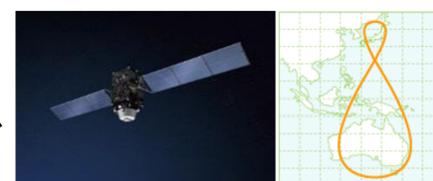
- ・ 2018年に準天頂衛星が4機体制となり、高精度な測位が可能になる。

### 【屋内測位】

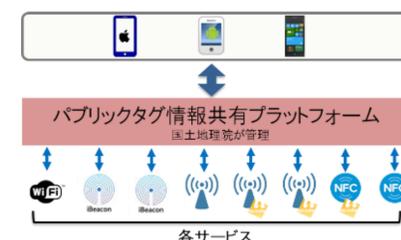
- ・ 様々な手法により屋内測位技術の開発が進められており、共通基盤化の検討が進められている。

### 【電子地図】

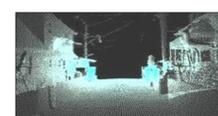
- ・ 地図作成技術の高度化等により、高精度な電子地図の作成が容易になってきている。
- ・ 屋内3次元地図標準仕様の検討が進められている。



準天頂衛星  
(出典：JAXAホームページ)



屋内測位の共通基盤化  
(出典：国土地理院資料)



MMS  
(出典：三菱電機（株）)



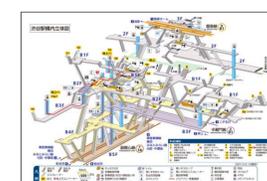
写真+レーザー測量  
(出典：（株）U's Factory)

## 東京オリンピック・パラリンピックの成功に向けて

○ 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を円滑に開催するため、また、その開催効果を日本全体に広げるためにはソフト面でのきめ細かな対応が必須。

### 【移動】

- ・ オリンピック会場の配置は当初計画よりも分散化。個々の会場への円滑な移動が課題。
- ・ 東京の交通ネットワークは世界でも例を見ないほど高密度であり、駅構内も複雑。  
例) 渋谷駅は鉄道4社が乗り入れ、地上・地下を含めて8層の複雑な構造



渋谷駅構内図  
(出典：東京メトロHP)

### 【安全・安心】

- ・ 外国人をはじめとした東京に不慣れな人々が円滑に避難できる環境の整備が必要。



東日本大震災時の新宿駅  
(出典：新宿区)

### 【観光】

- ・ ハード整備のみで世界各国の言語に対応し、きめ細かな案内をすることは困難。



## ～東京を、日本を訪れる方に世界最先端、最高級のおもてなしを～

世界に先駆けて高精度な測位環境を実現し、外国人・高齢者・障害者をはじめ誰もがストレスを感じることなくオリンピック・パラリンピックを楽しむためのきめ細かなおもてなしサービスに活用